

## はじめに

9章か11章のテーマの全体のテーマは「イスラエルの救い」です。9章は「イスラエルの選び」、10章は「イスラエルの責任」、そして今回から学ぶ11章には「イスラエルの回復」について記されています。前回学んだことは、イスラエルは使徒たちの宣教によってローマ世界にまで届いた福音を知っていました。さらに福音も内容について理解していたにもかかわらず、メシアであるイエスを拒否しました。それでも神は、イスラエルを見捨てずに救いの手を差し伸べておられるのだとパウロは語りました。このイスラエルに対する神のご計画とは果たして何なのか。パウロは、いよいよ問題の確信に迫っていきます。

### 1. パウロの例

**11:1a** それでは尋ねますが、神はご自分の民を退けられたのでしょうか。決してそんなことはありません。

旧約聖書を読んでいきますと、神にこれほどまでに忍耐を強いてきたイスラエルは、いい加減退けられても仕方ないのではないかとさえ思えてしまいます。しかしパウロは、神がご自分で選ばれたイスラエルを退けられることはないと言います。これまでにパウロは、イスラエル人の一部しか救われていないのは、神のご計画であると語ってきました。そして、神がイスラエル人を退けておられない証拠として「レムナントの存在」を挙げました。レムナントとは、「イスラエルの残れる者」「真のイスラエル」「霊的イスラエル」、などと呼ばれる少数の信仰あるイスラエル人のことです。パウロはレムナントである自分を例にとって、神はイスラエルを見捨てておられないことを証明します。

神が神のものを退ける。これは神がご自身を拒否することと同じ自己矛盾であり、ありえないことです。そのことは旧約聖書の昔から記されていることである、とパウロは語りま

**11:1b** この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の出身です。

パウロは、教会を迫害していました。その彼が、救われたのです。もし神がイスラエル

人を退けたとするなら、彼もまた救われなかったはずです。パウロの経歴を思い出してみましょう。①彼はイスラエル人です。②アブラハムの子孫に属する者です。③ベニヤミン族の出身です（パウロは、ベニヤミン族出身であることを誇りとしています）。ちなみに、ベニヤミンは、ヤコブの12人の息子たちの中で、イスラエルの地で誕生した唯一の息子です。エルサレムはベニヤミン族の地にありました。最初の王サウルは、ベニヤミン族出身でした。ベニヤミン族は、ユダ族に最後まで忠実に仕えた部族でした。そして、ユダヤ教の伝承では、ベニヤミン族は出エジプトの時に最初に紅海を渡った部族だとされています。

パウロがイスラエル人の中のイスラエル人であることは、否定できません。また、彼が救いにあずかっているということも、否定できません。このれっきとしたイスラエル人である彼がクリスチャンになり救われているということは、神がイスラエル人を見捨てておられない証拠です。私たち異邦人クリスチャンもまた、変わる事のない神の約束によって救われています。

## 2. エリヤの例

次に彼は、エリヤを例に取って、その論証を補強します。

11:2a 神は、前から知っていたご自分の民を退けられたのではありません。

神は、前から知っていたとあります。これを「神の予知」といいます。イスラエルの民が人類史の中で真の神を礼拝するようになる、旧約聖書を記し保存する、真の神を異邦人に知らせる特殊な役割を持つ、このことを神は前から知っておられてご自分の民とされました。そして神は、イスラエルが反抗することをも知っておられました。それにもかかわらず、イスラエルを選ばれました。ですから、イスラエルがメシアを拒否したとしても、彼らを退けることはないのです。

11:2b それとも、聖書がエリヤの箇所で言っていることを、あなたがたは知らないのですか。エリヤはイスラエルを神に訴えています。

11:3 「主よ。彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇を壊しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを狙っています。」

エリヤは北王国イスラエルで活躍した旧約聖書を代表する孤高の預言者です。エリヤの時代の北王国の王はアハブでした。その妻イゼベルはシドン人の王で、バアルの祭司エテ

バアルの娘です。彼女は政治的同盟のため、アハブと結婚しました。イゼベルはバアル（カナンの農業神）の信奉者として、450人のバアルの預言者と、400人のアシェラの預言者を抱えており、主の預言者たちを迫害して殺した人物です。

エリヤは、カルメル山で、イゼベルお抱えのバアルの預言者450人と1人で戦いました。カルメル山の戦いに勝利した後、イゼベルの脅迫に恐れをなし、ベエル・シェバまで逃げました。そして、えにしだの木の陰で、死を願いました。この時のエリヤは、自分ひとりが真の信仰者として残されたと考えていました。

11:4 しかし、神が彼に告げられたことは何だったのでしょうか。「わたしは、わたし自身のために、男子七千人を残している。これらの者は、バアルに膝をかかめなかった者たちである。」

この箇所では、レムナント（イスラエルの残れる者）という概念が誕生しました。エリヤの時代には、七千人がレムナントとして存在していました。このエリヤの箇所からも神がイスラエルを退けてはおられないということが明らかになりました。私たちもまた、神の予知によって招かれ、救いに導かれました。また、変わる事のない神の約束によって救われています。救いの確かさは、「神の選び」という事実の中にあるのです。

### 3. 今も同じように

11:5 ですから、同じように今この時にも、恵みの選びによって残された者たちがいます。

11:6 恵みによるのであれば、もはや行いによるものではありません。そうでなければ、恵みが恵みでなくなります。

レムナントが誕生する方法は、「恵みの選び」です。人は、恵みにより、信仰によって救われます。恵みによる方法と、行いによる方法とは、二者択一の関係にあります。もし、行いによる方法が真理であるなら、恵みは恵みでなくなってしまいます。

11:7 では、どうなのでしょう。イスラエルは追い求めていたものを手に入れず、選ばれた者たちが手に入れました。ほかの者たちは頑なにされたのです。

律法による義を追求した者は、義を獲得することができませんでしたが、選ばれた者は信じたので、神の義を獲得しました。そして、信仰によって応答しないなら、その心はますます頑なになり、自分の霊的状态が見えなくなります。

この状態は旧約聖書全体から見えてくる真理です

11:8 「神は今日に至るまで、彼らに鈍い心と見ない目と聞かない耳を与えられた」と書いてあるとおりです。

11:9 ダビデもこう言っています。「彼らの食卓が、彼らにとって畏となり、落とし穴となり、つまずきとなり、報いとなりますように。」

11:10 彼らの目が暗くなり、見えなくなりますように。その腰をいつも曲げておいてください。」

これは、申命記 29：4、イザヤ書 29：10、詩篇 69：22～23 からの引用です。パウロは、旧約聖書の 3 区分「律法、預言者、諸書」から引用しています。そして、①イスラエルには、レムナントと非レムナントの 2 つの流れがあること、②これは、昔も、今も、変わらないこと、③神はイスラエルを退けていないこと、④それどころか、神の計画はゴールに向かって進展しつつあること、などを教えています。神の計画は人間の思いを超えて素晴らしいものです。

## おわりに

パウロは、優秀ラビであり、神学者、執筆家、説教家であると同時に、キリスト者になる前には、悔いきれない過ちを犯した人物でした。

I テモ 1:13 私は以前は、神をけがす者、迫害する者、暴力をふるう者でした。それでも、信じていないときに知らないでしたことなので、あわれみを受けたのです。

1:14 私たちの主の、この恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに、ますます満ちあふれるようになりました。

1:15 「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。

1:16 しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対しこの上ない寛容を示してくださったからです。

神はこのようなパウロをレムナントとして選ばれました。異邦人に福音を宣べ伝える使徒、新約聖書の半分を書きした著者、キリストの十字架のほかに誇るものはないという者に代えてくださったのです。彼はあとに続く、かつてはどうしようもなかった罪人、私たちの見本なのです。神は私たちに対しても想像もつかない良い計画をもっておられます。

この朝、エリヤのように、疲れきっておられる方はいますか、これまで頑張ってきたけども、もうおしまいになりたい。燃え尽きてしまっている方、神を信じて変わらないのだと失望している方はいますか。

今日、神がエリヤに語られた言葉を思い返しましょう。神は、私たちがどのような試練や苦境に遭うかをあらかじめ知っておられるのです。そして逃れの道も用意しておられます。神はあなたを助ける準備をしてくださっています。あなたは神の愛する子であり、レムナント・残れる者なのです。

今、問題を横において、神を見上げ、私たちの神がどんなお方かを思い起こしてみましょう。天地万物を創造された創造主、人類歴史を導いておられるお方、私を救うために御子キリストを送って、十字架の贖いを完成し、信じる者を義として救ってくださる愛の神、世の終わりまでどんな時も共にいて最後まで導いてくださるお方、私たちの賛美を受けるふさわしいお方、慰め、癒してくださる神、私たちをよみがえらせ千年王国に導き入れてくださり、神の国の相続者としてくださるお方。このお方に信頼するものは失望することはありません。このお方に信頼して歩みましょう。

また、私たちはなぜこの教会に導かれ、集い、礼拝を捧げているのでしょうか。それは決して偶然ではありません。この地域には、救いを求めて苦しんでいる魂、神を求めている魂、主が用意してくださっている救われるべき魂、レムナントがまだまだおられます。その人々に神の愛である福音を伝えていく、救いの道ぞなえをする、キリストの愛で関わっていくものでありましょう。